

# 令和三年度 奈良県知事賞

## 命と増税について

奈良県立青翔高等学校 二年 長野 桜子

七月三日午前十時頃、連日降っていた雨をきっかけに、静岡県熱海市伊豆山地区で土砂流が発生した。死者と行方不明者は合わせて二十七名。複数の家屋も土砂に流され、多くの人の命と日常が奪われた、とても痛ましい災害となった。

たくさんの人々が戸惑いと驚きを隠しきれない中で、消防と警察、そして自衛隊が早々に人命救助に乗り出した。翌日の午後二時には住民が助け出されている様子の動画が編集され出回っていたため、もっと早く救助活動が始まっていたと考えられる。八月中旬に日本の広域を覆った記録的な大雨の際にも、雨が降り続けている中で救助が始まっていた。まだまだ安全確保がされておらず、立ち入り禁止区域になるほど危険な場所で、ひとの命のため、己の身を危険にさらす彼らに多くの人が感謝し、エールを送ったことだと思う。

そんな勇敢な彼らは、国や地方が定めた公務員である。彼らのお給料は税金から出ている。利益ではなく、国民と国のために働いてくれる彼らは、私たちひとりひとりの小さな支えで成り立っている。

私たちの暮らしを支える税金が、新型コロナウイルスの流行がある程度おさまった後、増税されるのではないかという噂を聞いた。やはり上げるなら消費税だろう。国民に一律で給付金を配ったり、東京オリンピックやパラリンピックがあったり、税金に頼る場面が多かったので、仕方のないことだと思う。

消費税は増税の話が上がる度に強く反対する人が一定数いた。確かに純粋に払いたくない気持ちはわかる。誰だって自分の取り分を増やしたいと思うものだろう。しかし、消費税は、国の収入の内訳を見れば分かるが、決して小さくない割合を占めており、今や現状生活の維持になくってはならない税金の一部になっている。消防、警察、自衛隊、教師や地方・国家公務員など、生活に切っても切れない存在がほとんどである。その中で消費税を下げる、または廃止するのは、どうも現実的ではないように思う。きっと税金がなんのためにあるのかから問わなければならないだろう。

私たちは、生まれた時から今まで、税金に医療や教育などでとても助けられてきた。そんな私たちがこれから納税していくことが、国や大人たち、そしてこれから育っていく子供たちへの恩返しと未来への投資になるだろう。